狛江消防署からのお知らせです

グラグラ揺れたら、ぴたっと電気を止める

グラぴたスイッチ（感震ブレーカー）を設置して震災時の出火による被害を防ぎましょう

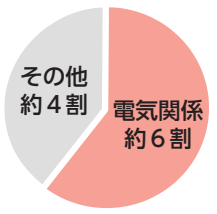
震度５強相当の地震を感知すると、自動で電気を止めてくれるよ！

地震時における火災の発生原因

阪神・淡路大震災や東日本大震災では、出火原因が特定されたもののうち、**約６割が電気火災**でした。

※「大規模地震時の電気火災の発生抑制に関する検討会報告書について（概要）」より

大規模地震時における出火原因



地震による電気火災の発生プロセス

事例1

地震で本棚が倒れ、雑誌が電気ストーブ周辺に散乱



停電した状態から通電し、ストーブが作動



紙類に着火、火災が発生



事例2

家具が転倒し、「電気コード」が下敷きや引っ張りで損傷



通電の瞬間、コードがショート



散乱した室内で、近くの燃えやすいものに着火



設置の際の留意点

- ◆懐中電灯等の照明器具を常備し、夜間の照明を確保しましょう。
- ◆医療用機器等を設置している場合、停電に対処できるようにバッテリー等を備えましょう。
- ◆安全を確保したうえで復電しましょう。
  - ・ガス漏れや、屋内外の配線に損傷がないか
  - ・機器の周囲に可燃物がないか
  - ・機器やコンセントに水がかかっていないか　等

グラぴたスイッチを設置しておけば、旅行中、外出中に地震が発生した場合にも安心です。
地域や大事な人を守るため、是非設置をお願いします。

グラぴたスイッチ＝〔出典：東京都防災ホームページ出火防止対策〕



狛江市感震ブレーカー設置支援事業補助金が始まりました



狛江市内の住宅に、地震による電気火災の発生を防ぐ感震ブレーカーを購入・取付した費用の一部を補助します。

■申請期間

令和９年２月26日（金）まで

■対象者

狛江市内の住宅に居住する市民（管理者や管理組合は対象外）
※令和５年度及び令和６年度に実施した東京都の出火防止対策促進事業により感震ブレーカーを設置している世帯は対象外。

補助対象事業	補助割合	上限
（1）感震ブレーカーの購入	4分の3	5,250円
（2）感震ブレーカーの購入及び取付 ※アース付きコンセントへの交換工事も含む	4分の3	30,000円

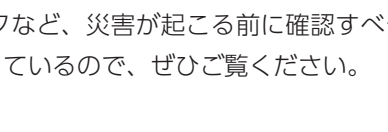
※補助金の交付は１世帯につき１回まで
※10円未満の端数切り捨て
※郵送料・割引金額は対象外

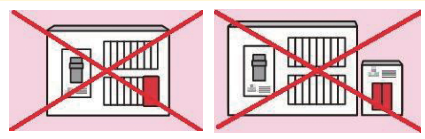
■申請方法

（1）電子申請にて申請
　※添付データはPDFまたはJPEG方式
　※宛名のない領収書は使用できません。
（2）安心安全課窓口にて申請

電子申請は▶こちらから

■対象機器（令和８年10月１日以降に購入・取付をしたブレーカーが対象）

対象となる機器		簡易タイプ	コンセントタイプ（一括遮断型）
	イメージ		
	特徴	分電盤に直接設置する。ばねの作動やおもりの落下により、ブレーカーを切ることで通電を遮断	コンセントに設置するもの。センサーが揺れを感知し、疑似漏電を発生させブレーカーを切ることで通電を遮断

対象外の機器		コンセントタイプ（特定機器遮断型）	分電盤タイプ（内蔵・後付型）
	イメージ		
	特徴	コンセントに設置するもの。センサーが揺れを感知し、機器に接続した電熱器具などのみを対象に電気を遮断（※補助金の対象外です。）	感震装置が分電盤に内蔵または外付けされたもの。センサーが揺れを感知し、ブレーカーを切って通電を遮断（※補助金の対象外です。）

風水害時における浸水被害の防止・軽減を図るため、止水板設置工事費等の一部を補助します

令和８年８月千葉豪雨では、多くの住宅が浸水する被害が発生しました。今後も大雨や台風による浸水被害が想定されますので、今のうちに止水板を設置するなど対策をとっておきましょう！止水板設置により建物への水の流入を抑え、浸水被害の軽減が図れます。

工事の必要なものから取り付け簡単なプラスチック製のものまで対象となります。

■対象者
市内で、過去に浸水被害を受けたことがある、または浸水被害が発生するおそれのある地域の住宅等の所有者・使用者・管理組合

■対象事業
（1）止水板の購入および設置工事（購入のみも可）
（2）浸水被害防止または軽減に資する関連工事（配管等への止水弁の設置工事、室外機等のかさ上げ工事、外壁の防水工事など）

■補助金の額（※1,000円未満切り捨て）
（1）実支出額の２分の１（上限30万円）
（2）実支出額の２分の１（上限20万円）

補助金の上限額がUP⬆しました

⚠注意事項⚠
・購入前、工事着工前に申請が必要
・補助金の交付は１つの住宅等につき１回



（⬆プラスチック製の止水板（例））

わからないことがあれば気軽にご相談を！

詳しくは、市HPをご確認ください



狛江市防災ミニアプリ

気象情報やハザードマップ、防災用品のチェックなど、災害が起こる前に確認すべき情報を確認することができます。必要な情報が分かりやすくまとまっているので、ぜひご覧ください。